

6・8アスパック粉碎伊東闘争に立て!

午前十一時、伊東市観光会館前、全国から闘う労働者学生市民の総力を結集せよ

革命的共産主義者同盟
マルクス主義青年労働者同盟
マルクス主義学生同盟中核派

政府外務省は「アスパック関係会議について——伊東市民のみなさんへ——」というパンフレットを現地でまき、その中で

「アスパックは、アジア、太平洋地域の安定と進歩のための協力機構であり、川奈での関係会議は、この機構にとってきわめて重要な行事です。これまで韓国ソウル、タイのバンコック、オーストラリアのキャンベラで開かれた三回の関係会議は、どこでも地元の人々から暖かい観迎を受け、各国の代表はみな快い印象をもって開催地を後にしております」と宣伝している。

しかし、過去三回それぞれの首都で開かれてきたように何故東京で開かれぬのか。伊東市のはずれ川奈温泉が会場になったのは「美しい風景、明るい太陽、そして暖く素朴な人情」(外務省パンフ)がそれほど大切な条件だろうか。

東京にはバリエード封鎖された大学が多すぎるからだろう。四・二八のように鉄パイプで包装した外務省の建物の中は多分暑すぎるのだろう。

南ベトナム、韓国、フィリピン、タイ、マレーシア、オーストラリア、ニュージーランドこのベトナム参戦国に台湾、日本が加わり、オプサートのラオスを入れて十ヶ国会談する意味は「アジア太平洋地域の安定と進歩」に果してとれだけ役立つだろうか。

一昨年十月八日羽田で山崎君を殺して南ベトナムに飛び立った佐藤首相は、今度南ベトナム外相以下アジア人民の憎しみの的になっている反動関係を迎えて、綻びかかっているアジアの帝国主義的支配体制を整えようというのだ。

沖縄返還を口にする佐藤内閣が、沖縄の軍事的価値が少しでも低下することに絶対反対する諸国を集めて何をしようというのだ。

軍事同盟でないことを一生懸命言い訳しなければならないこと自身、すでにその性格を自ら語っているのだ。沖縄の現状を固定化し日米同盟を一層強化して戦争と反動への道を突走る佐藤内閣の詭弁を絶対に許すわけにはいかない。

たとえ海岸の崖つぶちの川奈温泉で全国から動員された警官隊の厚い壁で「快い印象で開催地を後に」できるような暖いもてなし準備がなされても、それはあくまでアランでしかない。

われわれにとって第四回アスパックはまさに粉碎される対象としてのみあることを宣言し、断乎たる現地闘争への全国からの総結集で応えるであろう。

六月七日アスパック粉碎全学連決起集会

東日本 三時横浜国大(京浜急行南大田下車)

西日本 三時静岡大学(教養学部)

六月八日(十一日)アスパック粉碎現地斗争

八日午前十一時伊東市観光会館前総結集